

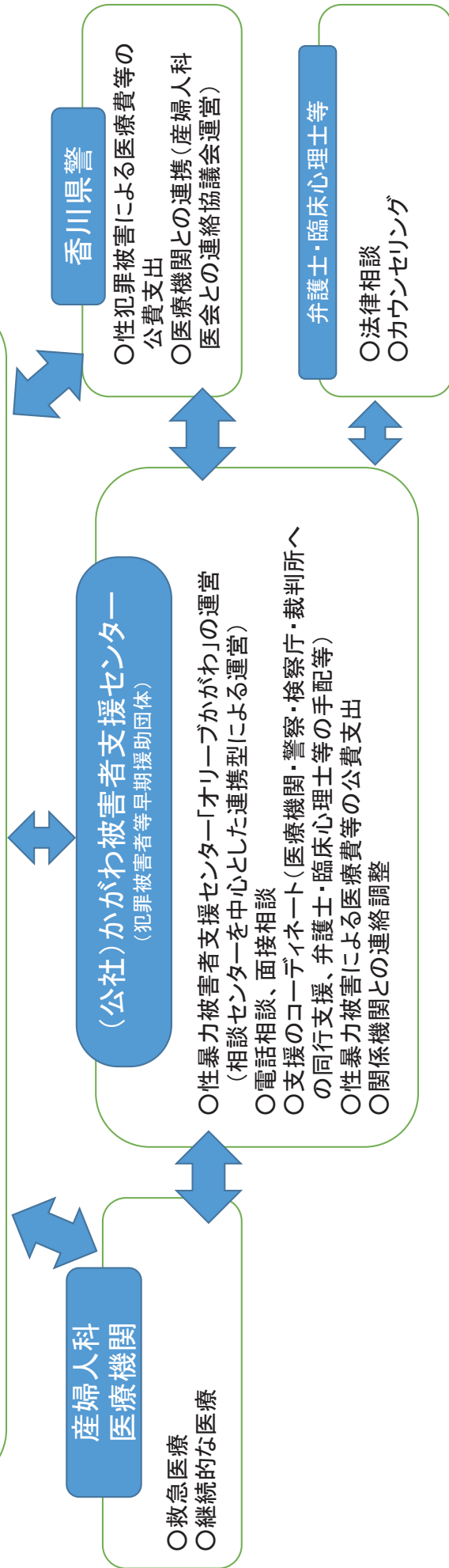
香川県

性暴力被害者支援センター「オリーブかがわ」実施体制

香川県

- 男女共同参画部局(政策部男女参画・県民活動課)
 - 性暴力被害者支援センター「オリーブかがわ」の設置(運営は(公社)かがわ被害者支援センターに委託)※
 - 広報・啓発
 - 各種研修
 - ★ 被害者支援体制の構築・強化 ① 支援員養成研修 ② 協力病院向け研修 ③ 性暴力救済看護職養成
 - 関係機関との連絡調整
 - ★ 被害者支援体制の構築・強化【相談員等連絡会開催】
- その他関係部局
 - 子ども性相談センター・西部子ども相談センター(配偶者暴力相談支援センター、児童相談所)での支援(児童への性的虐待や配偶者等による性暴力に該当する事案の被害者について対応)

★:内閣府モデル事業



※性暴力被害者支援センター「オリーブかがわ」は平成29年4月1日に設置

香川県：支援員の養成研修（基礎編）（被害者支援体制の構築・強化）

1. 実施前の課題

香川県では、平成 29 年 4 月にワンストップ支援センターを開設することとし、平成 28 年度事業として「性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター設置準備事業」を実施している。

相談センターを新規に設置することから、性暴力被害者のための支援員（非常勤の同行支援要員含む）を新規に養成する必要がある。

2. 実施による成果目標

相談センターの支援員となる者たちが、性暴力被害者支援に関する基礎的な知識について理解を深める。

目標値

- ・研修実施回数目標：1日3コマ×5日間
- ・参加者の満足度（＝アンケートで「大変満足」「まあ満足」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上
- ・参加者の理解度（＝アンケートで「深く理解」「やや理解」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上

3. 実施結果

下記のとおり 5 日間の研修を実施した。

- 日時：平成 28 年 10 月 16 日、22 日、11 月 6 日、12 日、13 日
- 場所：高松テルサ 307 会議室、308 会議室
- 講義内容（1 講座：120 分）：
 - ① 性暴力救援センターとは何か～その機能と役割～
 - ② 性暴力被害の実態
～性暴力救援センター・大阪 SACHICO での 6 年間の取り組みから見たもの～
 - ③ 性暴力被害者支援に欠かせないもの 1
～拠点病院の役割・性暴力被害者に対する病院での診察とは～
 - ④ 性暴力被害者支援に欠かせないもの 2～支援員の役割～
 - ⑤ アドボケーター（支援員）としてのスタンス 1～性暴力とは何か～
 - ⑥ アドボケーター（支援員）としてのスタンス 2～支援とは何か～
 - ⑦ 性暴力被害者の心理～トラウマからの回復に必要なことは～
 - ⑧ 被害者の家族の心理～被害者のこれからと人間関係を支える～
 - ⑨ 性暴力被害者への法的支援について
 - ⑩ ケーススタディ…講義内容をふまえたケーススタディ
 - ⑪ ロールプレイ…講義内容をふまえたロールプレイ
 - ⑫ ケーススタディとロールプレイをとりいれた実習を繰り返す
 - ⑬ ケーススタディ…講義内容をふまえたケーススタディ

- ⑭ ロールプレイ…講義内容をふまえたロールプレイ
- ⑮ ケーススタディとロールプレイをとりいれた実習を繰り返す
- 講師：加藤治子 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 代表）
原田 薫 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 運営委員）
久保田康愛 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 運営委員）
雪田樹理 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 運営委員）
- 参加者：1日目 30名 2日目 32名 3日目 27名 4日目 27名 5日目 27名
- アンケート結果
回収総数：83 参加者の満足度（総計）：97.6% 理解度（総計）：98.8%

意見等：

- ・ 自分自身の中にも偏見、思い込みが数々あった。その誤った認識から脱却しなければ、真の支援はできない。二次被害を与えてしまうことになりかねない。
- ・ PTSD についての詳細と、具体的な診断基準（PMS）について、明確な内容で知ることができたので、とても良かったです。
- ・ 被害女性の職業やこれまでの生活が、判決に影響してしまうことが多いことなど、司法の世界では、性犯罪に対してまだまだ理解が浅いということを知り、被害者のことを理解しサポートする支援員がそばについていることの大切さを学びました。
- ・ 初めての電話での来所を促すことの難しさを感じました。
- ・ ケースを紐とくにあたり、他の人の話を聞くことにより、自分の気付かない視点がわかってよかった。

4. 実施の成果

5日間 15 コマにわたる研修を実施し、満足度・理解度の双方について目標値を大幅に上回る結果を得たことから、参加者の性暴力被害者支援に関する基礎的な知識についての理解が深められたと言える。

5. 実施後の課題（現状）

- ・ 本事業は、養成研修（基礎編）としているとおり、基礎的な知識についての理解を深めるものであり、今後はより実践的なノウハウの獲得に向けた研修が必要となる。
- ・ 本事業以外の取組みとなるが、29年4月の開設に向けて、（公社）かがわ被害者支援センター（犯罪被害者等早期援助団体）でのOJTや、大阪ウィメンズセンターのアドボケーター（支援員）養成実践講座の受講を通じて、より実践的な養成を行っている。

香川県：協力病院向け研修（被害者支援体制の構築・強化）

1. 実施前の課題

香川県では、平成 29 年 4 月にワンストップ支援センターを開設することとし、平成 28 年度事業と

して「性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター設置準備事業」を実施している。

本県におけるワンストップ支援センターは、相談センターを中心とする連携型であるため、協力病院の産婦人科医師が、ワンストップ支援センターの連携体制について正しく理解するとともに、性暴力被害者支援に関する医療面の知識・支援時の心構え等を理解する必要がある。

2. 実施による成果目標

協力病院の産婦人科医師が、ワンストップ支援センターの連携体制について正しく理解するとともに、性暴力被害者支援に関する医療面の知識・支援時の心構え等を理解する。

目標値

- ・参加者の満足度（＝アンケートで「大変満足」「まあ満足」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上
- ・参加者の理解度（＝アンケートで「深く理解」「やや理解」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上

3. 実施結果

下記のとおり研修を実施した。

- 日時：平成 28 年 10 月 23 日（日）14 時～17 時
- 場所：サンポートホール高松 62 会議室
- 講義内容
 - ① 「香川県性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター（仮称）運営の手引き」について（県担当職員説明）
 - ② 性暴力被害当事者にとって本当に必要なことは何か
～性暴力救援センター・大阪 SACHICO の実践から見てきたこと～
 - ③ 性暴力被害者に対する産婦人科医療の役割
～回復に向けた総合的判断に基づく医療的支援～
- 講師：加藤治子 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 代表）
- 参加者：産婦人科医師 12 名
- アンケート結果
回収総数：10 参加者の満足度：100% 理解度：100%
意見等：
 - ・ 経験豊富な講師で説得力が強かった。
 - ・ 結果説明、心理的な支援（言葉をどのようにかけるか）が分かって良かったです。

4. 実施の成果

満足度・理解度の双方について目標値を大幅に上回る結果を得たことから、参加者のワンストップ支援センターの連携体制、性暴力被害者支援に関する医療面の知識、支援時の心構え等についての理解が深められたと言える。

5. 実施後の課題（現状）

本県のワンストップ支援センター連携体制における協力病院数は22に上るところ、参加した医師は12名であった。来年度以降も継続的に協力病院向けの研修を実施することで、全ての協力病院において、性暴力被害者に対して適切な支援が行われるよう、医師の資質の向上に努める必要がある。

香川県：性暴力被害者支援看護職研修（被害者支援体制の構築・強化）

1. 実施前の課題

香川県では、平成29年4月にワンストップ支援センターを開設することとし、平成28年度事業として「性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター設置準備事業」を実施している。

本県におけるワンストップ支援センターは、相談センターを中心とする連携型であるため、協力病院の看護師が、ワンストップ支援センターの連携体制について正しく理解するとともに、性暴力被害者支援に関する支援時の心構え等を理解する必要がある。

2. 実施による成果目標

協力病院の看護師が、ワンストップ支援センターの連携体制について正しく理解するとともに、性暴力被害者支援に関する支援時の心構え等を理解する。

目標値

- ・参加者の満足度（＝アンケートで「大変満足」「まあ満足」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上
- ・参加者の理解度（＝アンケートで「深く理解」「やや理解」を選んだ人の数／アンケート回収数）
目標：80%以上

3. 実施結果

下記のとおり研修を実施した。

- 日時：平成28年10月23日（日）14時～17時
- 場所：サンポートホール高松 63 会議室
- 講義内容
 - ① 「香川県性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター（仮称）運営の手引き」について（県担当職員説明）
 - ② 性暴力被害当事者にとって本当に必要なことは何か
～性暴力救援センター・大阪 SACHICO の実践から見てきたこと～
 - ③ 性暴力被害者支援とは何か
～二次被害を与えない支援のスタンス～
- 講師：原田 薫 氏（性暴力救援センター・大阪 SACHICO 運営委員）
- 参加者：看護師 5名

○ アンケート結果

回収総数：5 参加者の満足度：100% 理解度：100%

意見等：

- ・ (今後参加してみたい研修のテーマ) 支援者研修、具体的な支援事例
- ・ 二次被害を与えないよう支援できるよう努力します。
- ・ 全く自分が理解していないということがよくわかった。女性という立場が抱える問題は根深い。辛いことが現実には起きているのだなと思った。
- ・ 私どもの小さな診療所にとっては大きな問題ですが、性暴力とは身体の統合性と性的自己決定を侵害するものということをもとに、さまざまな神話をとりさり、私なりの支援ができるようになればと思わせられる興味深い研修でした。

4. 実施の成果

満足度・理解度の双方について目標値を大幅に上回る結果を得たことから、参加者のワンストップ支援センターの連携体制、性暴力被害者支援時の心構え等についての理解が深められたと言える。

5. 実施後の課題（現状）

本県のワンストップ支援センター連携体制における協力病院数は22に上るところ、参加した看護師は5名であった。来年度以降も継続的に看護師向けの研修を実施することで、全ての協力病院において性暴力被害者に対して適切な支援が行われるよう、看護師の資質の向上に努める必要がある。

香川県：相談員等連絡会議（被害者支援体制の構築・強化）

1. 実施前の課題

香川県では、平成29年4月にワンストップ支援センターを開設することとし、平成28年度事業として「性犯罪被害者等のためのワンストップ支援センター設置準備事業」を実施している。

本県におけるワンストップ支援センターは、相談センターを中心とする連携型であるため、連携する他の期間との連携について具体的に協議する必要がある。

2. 実施による成果目標

ワンストップ支援センターの各連携機関が、運営の際に必要な事項について協議及び確認を行う。

3. 実施結果

下記のとおり実施した。

- 日時：平成 28 年 11 月 9 日 19 時～21 時
- 場所：かがわ男女共同参画相談プラザ ボランティア・男女共同参画交流室
- 参加機関：香川県産婦人科医会、香川県弁護士会、香川県臨床心理士会、香川県子ども女性相談センター、香川県西部子ども相談センター、県警広聴・被害者支援課、
(公社)かがわ被害者支援センター、香川県男女参画・県民活動課
- 協議・確認内容：
 - (1) 各機関からの状況報告
 - (2) 意見交換（主なもの）
 - ① 同意書について
 - ② 各機関の情報共有について
 - ③ 閉所時の留守番電話について
 - ④ 協力病院への依頼について
 - ⑤ 児童への性的虐待について

4. 実施の成果

ワンストップ支援センターの各連携機関が、運営の際に必要な事項について、確認を行うことができた。

5. 実施後の課題（現状）

ワンストップ支援センター開設後も、継続的に会議を行うことで、連携機関間における情報共有を進め、被害者に対してよりきめ細かい支援が行える連携体制を構築する。